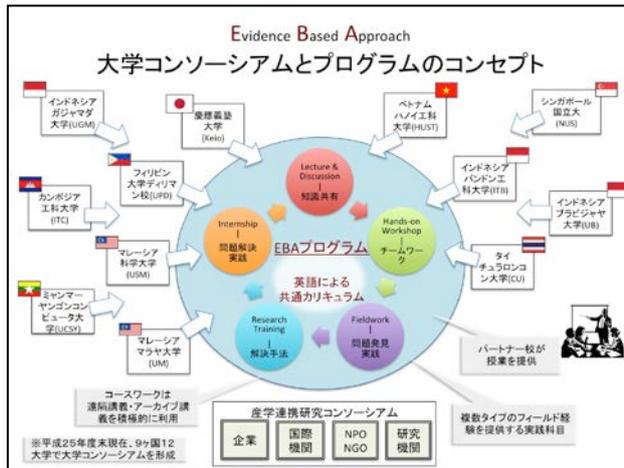


進捗状況の概要 【1ページ以内】



【コンソーシアムの形成と運営体制の確立】 慶應義塾大学とASEAN7ヶ国11大学との間で、「EBAコンソーシアム」設立に関する協力協定の締結を準備。コアとなる6大学と、共通カリキュラム開発、授業共有、フィールドワークの参加と開催について合意し、それに向けた作業を具体的に開始した。コンソーシアムの意思決定は年1回開催する全パートナーによる全体会議（2013年3月、2014年3月に開催）で方針を決定し、月例コーディネーター会議（テレビ会議）でその進捗を確認する。また、その方向性は2014年3月に設立した外部評価委員会で確認していく、という運営体制を確立した。（左図：コンソーシアムの形成と大学間連携）

【共同授業およびセミナーの実施】 授業共有の一貫として、2013年度秋学期に慶應義塾大学より遠隔授業（ビデオアーカイブとテレビ会議を併用した授業）の提供を開始。フィールドワークと連動した防災等専門性の高い科目だけでなく、要望のあった日本語科目の提供を開始した。また、2013年7月より、EBAに関連した分野の遠隔セミナー「オープンセミナー」を開催し、各大学の教員・学生による情報交換や議論の場を提供している。2014年3月末までに6授業を実施し、パートナー大学からは約130人の学生・教員が授業・セミナーに参加した。ある一定の条件を満たした受講者には、コンソーシアムから修了証が発行される予定。

【学生の派遣・受入】 現在までに海外フィールドワーク6件、国内フィールドワーク3件、国内インターンシップ5件を実施し、ASEANからの学生23人、慶應大学の学生21人が参加した。参加者にはコンソーシアムから修了証が発行される予定。（注：2014年3月に予定されていた国外フィールドワークは自然災害のため中止された）また、質を伴ったプログラムをより円滑に実施していくため、慶應義塾における学部学生受入に関わる制度（協定学生）を新設し、制度に基づく学生受入を開始した。制度に基づく学生受入れを平成26年度より開始予定。

【アウトリーチとコミュニティ形成】 WebページやSNS（Facebook/Twitter）を用いた学生/教員/一般向け情報の発信を行ない、プログラムを積極的に紹介している。また、各大学におけるコンタクトを明確にし、ASEANの学生への支援体制の充実を図っている。

【産学連携体制の準備】 2013年11月、インターンシッププログラム拡大に向けた産学連携研究コンソーシアムを発足し、プログラムの持続可能な形態の準備を開始した。



パートナー大学全体会議



オープンセミナー



水俣フィールドワーク



ヤマハインターンシップ

【本構想における中間評価までの交流学生数の実績】

平成24年度				平成25年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
20名	7名	16名	4名	48名	14名	36名	19名